

令和2年度篠原児童館目標及び報告

篠原児童館

	目 標 (P)	実 践 (D)	気付き・反省 (C)	次への期待 (A)
サービスの質の向上	子育て支援の強化	<p>親子館事業の充実 (夏休み親子の居場所作りを夏休み期間 30 日実施)</p>	<p>7月から親子館事業を開始し講師を招き親業の話を5回出来ました。自粛で家庭に引きこもっていた方が、親業を通じて自分の思いを話せる機会になったと思います</p> <p>夏休みの親子館事業は実施できせんでしたが、問い合わせも数件あり、期待されていることを実感しました</p>	<p>自粛期間を経て、待っていてくれる方がよかったです。講義を聞くだけでなく、自分から気持ちを話せる機会をこれからも、たくさん作っていきます</p> <p>夏休み期間にできない事業として飲食を伴わない学習支援はできるようにしていきます</p>
	<p>(在宅育成事業) 親子館事業の充実</p>	<p>すこやかクラブ要綱見直し (対象年齢の引き下げ)</p>	<p>年度中でも満2歳を迎えた幼児をすこやかクラブに入会できようとしたことで、年齢が高くても、次の年度まで入会できなかり、申し込みも1組あまりになり、申し込みに要綱の変更はよかったです</p>	<p>令和3年度も、すこやかクラブ入会の年齢を満2歳にして、より多くの幼児の受け入れをしていく</p>
児童育成の拡充	<p>季節行事の充実 (こども育成事業)</p>	<p>外部講師の活用</p>	<p>新型コロナウイルス感染症予防で講師の活用をリトミックと、親業に限定し、人数も5組程度と減らしました</p> <p>人数制限をしたので、こどもたちの距離も十分とれて楽しく活動できました</p>	<p>人数制限を取り入れ、参加する保護者には体調が悪い場合には参加を見合わせていただき、検温と消毒を徹底して外部講師の活用を続けていきます</p>

	目	標 (P)	実践 (D)	気付き・反省 (C)	次への期待 (A)
サービスの質の向上	児童育成の拡充	(子育て家庭支援事業) (ふれあい交流事業) 放課後児童クラブ事業の 充実	こどもエコクラブへ積極的に参加をし、児童と地域のエコ活動の協働作業の定着	「自分たちでできるエコを続ける」という思いを今年度は監理を体験する事と学ぶ事をエコクラブで実践しました。水や雑草抜きなど一人ですることもあり、積極的ではなくても取り組める事でした。最後には自分だけのマスキを藍染で作ったことで達成感も持つことができました	昨年度は1年を通して学ぶ事とエコを通じた体験をしましなもので、次年度ではもっと身近なものを通じたエコを検討していきます
地域との共生	地域との連携を図る	(地域連携推進事業) ボランティアの育成と 社会参加の機会の提供  (子育てコミュニティ育成事業) 日曜開放委員と共に地域の親子を対象に行事を行う  PTAと一緒に下校時の見守り活動の実施	地域のボランティアの多様な活動を活かし、ボランティア育成と社会参加の機会の定着(年間20回)  子育てコミュニティ育成事業にて年間8回実施	新型コロナウイルス感染症もありボランティア活動も年間20回はできませんでしたが、キッズクラブ・すこやかクラブと通じて活動はできました  当初予定していた、飲食を伴う事業は中止とし、季節の工作などに代えて実施をしました。また、日曜日に児童館を開館して将棋やグランドゴルフができる	参加していただくボランティアには体調管理と消毒を徹底して続けていきます  開放委員の方が中心となつた活動は来年度も続けていきます  PTAと児童館と地域が児童の安全を見守れるように、機会を一つつけて協議していく。
年間利用数	児童保育クラブ年間利用者予定数(26,460名) 自由来館年間予定数(3,730名)の受け入れをする	児童クラブ11,376名 自由来館17,425名 (28,801名)受け入れがあった。	児童館の職員と地域のボランティアは毎回参加があつたがPTAの参加が見受けられなかつたので、参加を協議する。	コロナウイルス感染症予防の為に小学校が臨時休校となつた為一般来館が減り、児童利用も休会する児童が増えたので利用者が減る事となつた。	感染症予防の為に小学校の休校が続く児童利用者が減つたり自由来館者数も減りました。コロナウイルスが改善に期待をします。